

明日香村地域おこし協力隊活動報告書 2025年5月 徳力一志

明日香村では、主に五月上旬に籾撒き(稲の苗を育てるための種まき)を行います。約一か月ほど苗代という場所で育て、その間に田んぼの準備をし、来月に始まる田植えに備えます。



お米の種を撒き、苗代まで運び、伏せるまでを五月上旬に行いました。これは日本人が稲作をはじめてから今まで毎年繰り返されてきた行為です。家族や仲間と協力して作業を行い、皆でお昼ご飯を食べるといふ、近年は失われつつある光景が明日香村では見ることができます。



苗は約一か月ほどかけ田植えできるまで成長します。米農家の間では苗半作と言われているようで、苗のできが収穫と直結する大切な過程です。成長を待つ間、田植えに向けて田を起し、田んぼの整備を進めました。



また、今月から新たに村内で多品目の野菜を有機で栽培されている農家の方のもとで研修を行いました。彼も自分と同じ県外からの移住者で、新規就農して以来10年以上専門農家として生活されています。自分にとって貴重な話ばかりで、苦勞や試行錯誤を重ねた先の圧倒的な情報量の栽培手法に驚きました。

村の農業発展のためにまず自分自身がきちんと学び、新たな可能性を提示できるように努めます。



そして様々な農家の方々から助言やご指導をいただき、無事さつまいもの植え付けも終わりました。予定よりだいぶ多い400本の苗を植えました。収穫物をどうやって捌くかは農家にとって非常に大きな課題のひとつなので、この機会に向き合ってみます。